

2-5. グローバル環境システムリーダーコース（GESL）

グローバル環境システムリーダー（GESL）コースは、地球規模での環境変化に迅速かつ適切に対応するグローバル環境システムを創出、先導する人材育成を目的としている。環境、エネルギー、ICT、政策、国際関係、社会システムの各専門領域を統合し、政策・メディア研究科と理工学研究科の連携体制の下で、グローバル環境システムの実現を先導する未来社会創造型リーダーを育成する。本コースの対象学生は、修士2年間、博士3年間の計5年間（博士課程からの入学者は3年間）を通じ、環境に関する4分野（グローバル環境政策プロフェッショナル、環境科学技術・政策プロフェッショナル、環境情報システムプロフェッショナル、大規模環境システムプロフェッショナル）の中から、メジャー（主専攻分野）、および、マイナー（副専攻分野）の2分野を選択し、それらの学習と研究活動をベースに統合的な要素を含んだ知識や技能を修得する。

※2019年度以降は新規募集をしていません。

【担当者】

一ノ瀬 友博、蟹江 憲史、◎清木 康、巖 網林、小林 博人、武藤 佳恭、村井 純、浦木 麻子、佐々木 史織、森田 香菜子、林 康弘

【担当者（他学部・他研究科所属教員）】

植田 利久、岡田 有策、小尾 晋之介、栗田 治、鈴木 哲也、畑山 明聖、菱田 公一、深淵 康二、泰岡 顕治、ラドヴィッチ、ダルコ、レスティ、アンガヤスティ、浅井 誠

【担当者（海外連携・提携機関教員等）】

マストラコス、エパミノンドス、ロウ、チャン、ヤーコラ、ハニュー、渡邊 正孝

【キャリア・資格等】

本コース履修生は、博士号取得後、修得する知識および能力により、大別して次に示す4種類のリーダーとして活躍する。

(1)大規模システムプロフェッショナル：大規模システムを構築し、運用するプロフェッショナル

（想定キャリアパス：製造メーカー、材料メーカー、化学メーカー、国際環境・エネルギー機関、行政機関、大学、国際機関等）

(2)科学技術政策・経営プロフェッショナル：グローバル環境システムの設計、システム支援体制などの具体的制度設計を行うプロフェッショナル（想定キャリアパス：メーカー、エネルギー研究機関、行政機関、大学、地方自治体、国際機関、環境NPO等）

(3)環境政策プロフェッショナル：環境システムの社会ルール・制度設計のプロフェッショナル

（想定キャリアパス：国際機関、エネルギー研究機関、行政機関、大学、地方自治体、国際機関、環境NPO等）

(4)環境情報システムプロフェッショナル：環境情報システムソフトウェアのプロフェッショナル

（想定キャリアパス：環境関連企業、国際機関、エネルギー研究機関、行政機関、大学、環境NPO、ソフトウェアメーカー等）

【サティフィケート修得要件】

サティフィケート名称：「グローバル環境システムリーダー（Global Environmental System Leaders）」

下記1～5の要件を満たし、後期博士課程を修了した者にのみ、本コースで修得した専門性「グローバル環境システムリーダープログラム」が付記された学位記とともに、政策・メディア研究科と理工学研究科の連携体制の下でメジャー（主専攻分野）およびマイナー（副専攻分野）の学問分野を修得したことを示すGESLサティフィケートが授与される。

※各要件の詳細については、GESLコースガイドラインを参照のこと。

1	基礎科目	環境情報システム構築法または大規模環境システム構築法から2単位以上、環境科学技術・政策特論またはグローバル環境政策特論から2単位以上、合計4単位以上を、修士課程からの通算で修得すること。
2	マイナー研究成果発表	GESL合同研究科セミナーにおいて、マイナー研究の成果を発表し、審査に合格すること。学生は、上記1基礎科目の条件を充足したのち、マイナー研究成果報告書を提出し、マイナー研究分野に対応可能な研究科委員4名以上を審査員とし、口頭発表を行うこと。
3	国際トレーニング科目	国際トレーニング科目として、原則として6か月以上の国際的なフィールドワークまたはインターンシップを実施し、学修研究活動の成果をGESL合同研究科セミナーにおいて「国際トレーニング成果発表」として口頭発表し、審査に合格すること。修士課程からの通算で、フィールドワークA/B/C/D（各2単位）、インターンシップA/B（各2単位）および博士課程設置科目先端フィールドワークA(8単位)/B(4単位)/C(4単位)/D(6単位)の中から合計8単位以上を取得すること。
4	国際会議発表	国際会議において、英語による発表を2回以上行うこと。
5	語学能力	Computer Based TOEFL213点以上(Paper Based TOEFL550点以上、Internet Based TOEFL79-80点以上でも可)、TOEIC730点以上、実用英語技能検定準1級以上の英語能力、または、IELTSのバンドスコア6以上を有すること。